

當田流六脈之次第

✕  
t 48

御本

書

當流脈之次第  
并丑癩之圖

昭和二年十月

490.9

To-20

No. 4043

12 7 48



富士川文庫

2218

肺ハ手太陰 心ハ手少陰 肝ハ足厥陰  
脾ハ足太陰 腎ハ足少陰

心色ハ手少陰陰 大腸ハ手陽明 小腸ハ手太陽  
三焦ハ手少陽 胃ハ足陽明 膀胱ハ足太陽  
膽ハ足少陽

脈ハ虚實寒熱 沈浮遲數

沈澁 細堅緩洪大 緊急 緊急

心ノ榮ニ血ナリ  
肺ノ衛ニ氣ナリ

沈ハ陽ニ表ナリ 血ニ氣ナリ

浮ハ陽ニ表ナリ

怖ハ氣ニ表ナリ 中ハ浮沈ノ象

任脈ハ腹中通リ 經ハ表ナリ

督脈ハ背中通リ 絡ハ表ナリ

傷寒熱病脈 廣大ニ數有リ良 沈細アリ、  
鼻血吐血脈 廣大ニ數有リ沈細アリ

當流六脈之次第



一心脈浮之脈ハ拘塞或ハ以痛殊左癢痛雀連

一心脈浮之脈ハ弱ハ可有眩暈心人杯遺是多無夏也  
時々并切下アリ向不抄夏アリ皆積聚也

可採浮之脈ハ引名可知肝大其目痛或ハ以痛心  
有熱氣ナク左脈痛ハ積聚ナリハ血塊杯ト可知熱氣  
アリハ 葉雀遺之脈ハ九ナキハ青ナリ可再積聚血塊ナリ  
後亦遺ナリ

一腎脈浮之脈ハ下石ナリ水ナリ倍小夜尿赤ナリ名開ナ  
有下石熱氣有カ有テ浮ヲ積トス

一腎脈浮之脈ハ散ニ持テハ方ト指實ハヨシ

一肺脈浮之脈ハ弱ハ咳數痰多也肺虚冷名可知人莖玄  
苦杯遺ナリ

一肺脈浮之脈ハ引清涕ハ咳嗽之痰ト是也葉雀厄杯ナリ  
一肺脈浮之脈ハ胸塞氣脹食心有ニ為ナリ也

一脾脈浮之脈ハ弱ハ腹下心有ニ或ハ石食心有、人本キ若殊  
苦益ナリ也

一命門脈浮之脈ハ小夜杯黄ニ可浪腎虚ナリ  
下石有卷杯ナリ也

一合則拳搦は弱指、右腎の腎下其冷、小便後、  
 高、中、流、失、杯、入、山、兔、系、子、人、生、行、肉、從、谷、  
 良、以、二、六、脈、四、動、五、動、六、指、シ、カ、上、竟、  
 能、孫、入、何、孫、煩、治、あ、是、ハ、氣、微、メ、夢、故、  
 十、ヲ、夢、可、信

一、脈、用、拳、テ、法、實、テ、搦、テ、ハ、白、微、ナ、ル、ハ、血、虛、或、ハ、勞、瘵、  
 女、ノ、如、モ、治、ス、夏、ノ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、イ、  
 圭、而、寒、物、ヲ、身、ノ、合、テ、血、ヲ、可、信、拳、テ、有、力、孫、身、熱、  
 有、ハ、咳、或、ハ、傷、ヲ、風、ヲ、者、在、引、先、ト、可、知、友、敵、  
 男、二、蘇、雀、首、面、キ、年、芬、圭、ヲ、引、先、ト、可、知、  
 中、凡、之、應、依、心、悸、揮、心、ノ、ル、シ、亦、中、凡、心、ノ、積、聚、  
 心、ノ、レ、シ

脈、ノ、レ、シ、法、方、心、堅、キ、物、有、ト、可、知、積、聚、之、瘵、依、ス、ハ、シ

六、脈、用、指、テ、力、ヲ、盡、テ、搦、テ、治、ハ、血、道、ノ、滯、ト、可、知、大、略、女、  
 善、ノ、瘵、依、テ、元、血、虛、ト、察、ト、上、レ、條、治、ナリ

男子、ハ、四、動、五、動、平、脈、婦、人、ハ、三、動、四、動、平、脈、童、子、ハ、  
 五、動、六、動、平、脈、何、レ、盡、力、ヲ、虚、ト、ス、緩、ト、浮、モ、ナ、ク、指、竟、  
 子、ヲ、能、キ、孫、ト、ス、レ、ナリ

常流傳法

圖書雜出

肺ヲ助ト思ハ

心火ヲホソム

脾ヲ助ト思ハ

肝木ヲ制ス

腎ヲ助ト思ハ

相火ヲ靜ム  
ソウ火ハ心包格

男  
 左 心小腸 肝 脾 腎 膽 胱  
 右 肺 大腸 脾 胃 命門

女  
 左 心 肝 命門  
 右 肺 脾 腎

一脾胃振泳法 凡活ノ休ホト堅ク強キ法ニ堅キ心有ラハ  
 可本腹入

○子ノ脈、左寸、肺、口、浮、ナ、ハ、活、多、押、テ、毒、力、其、上、右、尺、中、拳、押、  
 活、ハ、是、思、藥、ヲ、テ、三、日、五、日、間、驗、ナ、ク、ハ、十、日、内、死、ス、ナリ  
 ○亦脾胃脈、振、テ、虚、活、モ、毒、力、張、リ、カ、心、命、門、毒、力、張、カ、テ、ハ、  
 大、夏、ヲ、茶、五、粒、ヲ、子、盡、驗、ハ、十、日、内、死、ス、ル、ナリ  
 ○又、ソ、振、毒、ハ、一、日、或、ハ、二、日、或、ハ、三、日、間、死、ス、口、傳、左、之

一六脈凡石母ノ核卧于其外ノ上ヲ搜シ似ノ丑ハ其ハ一日ノ死ス心虚故ナリ コレヲ僂力ニ謂ル

一六脈凡麻痺ノ乱名ニ似ノ三日過テ死ス事キモノハ寅ノ時ノ死ス肺ノ極破タル故 コレヲ麻促ニ謂ル

一六脈凡大豆袋ノ今搜シ似ノリキヲ押シクルトクルク心有救不足近日死スナリ コレヲ轉豆ニ謂ル

〇脈ハ虚實寒熱 又浮沉遲數 コレヲ至極スベシ

一胃気ハ脉中ノ脉ナリ  
一脈浮シ平押テ數有ハ血熱ニ裏然シ積聚ナリ

一死脈ノ傳ト云フハ當流ニ盡之前方ニ死シテ知ル故也  
七弦脈ノ為肺堅ラ細カクキセ死相ニ是紛ニ故  
カト書

一傳更ノ脈細ア名ハ脈ニ瘦シ難治故也  
カトシ 脈フトキハ未ダ瘦サルニ生木火ノ骨カトシ  
瘵治メ念ル夏多ク四火をヨシ

一傳更ノ脈カイ物有心付為天救メカラナク中クルト  
湯ノ湧キ出ル脈成ハ冷性ノ虚ナリ可治ス  
一傳更ノ脈カイ物無キ張心有テ瘵掛袋ノ押心有可治ス

一傳更ノ脈カナク凡脉ニツクリトア名ハ冷性ノ熱  
甚友ハ時疫シ

一傳更ノ脈カ甚キ押心ノ脈ノ根ヨルハ可治也  
其終トシハ血ヲ指シ付ナリ

一傳更ノ脈ガアル脈有之矣ト思フ可ラス虫積聚  
ツカテアルハ甚キ邪カ矣トニスルナリ甚弱ノ脈ハトクハ  
堅キ心ヲ浮テ成程カロク先キ如夫トモ邪ヲ子  
シテ下スヘカラス甚キ邪ヲタモテ瘵治スハ先難治

一寒ト弊トシ脈ヲ能ク糸ナリ是ヲサテ首亡ハ竹リ  
遠ハナキ物ナリツレハ心付子ハ脈ノ形ニ本集シテ勢多友  
極動救アルハ矣弊トシ遠アルナリ

一脈押心老人ト小人ト甚肉和ナル人瘦タル人心付ナク  
指ツカテ六押切モナリ又肥名人腫ナル人太力沉  
ニ矣ナルモノ腫ノ病入極不午ノ脈付ハ難治

一脈ト顔色取合テ病源ヲ見ル

一脈ノ色乾タル者又赤心ノ瘵アリ血分不足又赤心  
死アリ純キ脈ハ血虚アララス又濕ナトモ通スベシ

一 傳吏ノ脈掛リタル脈ヲ候テ以テ治スル脈ニ泥ナリ形ノ出タルハ診脈ノ出キ程相心候ニ至ルヘシ

一 老人ノ脈浮大衰ナル有血肉ヘリテ多ク故ナリ虚ナレトモトニユル

一 小兒ハ五臟ノ未ト潤ハス故脈モシニストテ骨ヨリ指ノ節子其病源ヲ定ルト有是をナリユヲ知ルニ虫痔ノ瘻ヲシルノニナリ者流モ左ノ如シハ脈浮ナリ大人ノ脈ハシナレハ大指ヲ診ルニ多ク虫痔ノ瘻名ノ名足ヲシルノニナリユ内ニ情ノ十年故ナリ

一 小兒ノ脈大人ノ如クナル惡シ石病ニ病脈ナリ

一 フ切ノ病モ運氣ノ衰モ脈ノ付テ者ノ目ニユヲ用サレハ皆ヨクアツモナリ

一 傷寒ノ症心肝令少活ハ治カキ物ナリ

一 人ノ先付テ脈ノ形カサマ々有(大ナルモ有ナルホト微ナシナルモ有)沈メタルホトカイナキモ有リトイハレ浮沈遲數之別ハ教シ又病ナリま々ノ脈ホト々ノ指ノハ多クカテ虚寒ノ症候ヲ診タルカヨシ

一 一向ノ脈ヤ多ク又モ有(ニ)支モ脈ナリ

一 血氣杯之症浮大救メ乾テ火症候ニ見レ脈者ユハ弁心ハツムヤウナルモノナリ此内ニスヲモツ心アリ

一 勞傷ノ病人脈モ三至ナリ至極死症ナレ然レユトナリ之症セハ其答ヲキフエトモ醫者索スヘシ此時ハ脈トモニ

一 面ノ氣ナリナリテ脈付モナラヌナリ

一 連テ救脈出ハ將出ヘト知ツテ法キキナリ

一 時ナラスメ到テ救脈出ハ救死スヘト知リテ修治スヘシ又生脈ノ一物半ニ物アルモ日新タルヘシ

一 妊者ノ脈綿キツモノ、如クホユムト配方ナリテアルモノシ尺脈高マナルハ月重ク故ナリ產ツセトスル時ノ脈ハ入院細ナリ救メ下蒸ノ脈ハアタラヌナリ

一 妊者左ニテモ右ニテモ脈大ナル方アリ男子トナレハ左右同シ莫クタル極ハ女子ナリ

一 食傷之脈ハ心脾ニカアル者ナリ又心脾ノ虚スルモアリ治法ナリ是ハ食傷ノ症ナリ

一 瘡毒之脈ハ針キノ如クハ脈ノ通リタル物ナリ

一中風之脈ハ寧シ見テ虚ナルモ有リ色々脈ノ形アル者ナリ又沉メ堅キ莫アルベシ

一虫ノハ心脈ホ子々トアタルベシ小兒ニ多シ

一淳ハ腎ニ表ナリ 腎氣メ血ナリ中ハ浮沉ヲ兼シ 沉ハ極ナリ表ナリ 血メ氣ナリ

一心法ケルハ病心ナリ弱モ同カハ脈凡如ク浮沉 遲數ヲ兼ル

一脈ヲ診シ脈所ハ其正指ノ腹ヲ双テトス指氣折テ ツツムヤウニテ脈ヲトハ甚脈所ハ押ヨセテヨウク コユルモノナリ

大人ナラハ指ヲブテテテヨシ指トノ右タヒラク心ナリ虚者ニ シレカ子ハ指ヲ細心ヲハイニ見ル

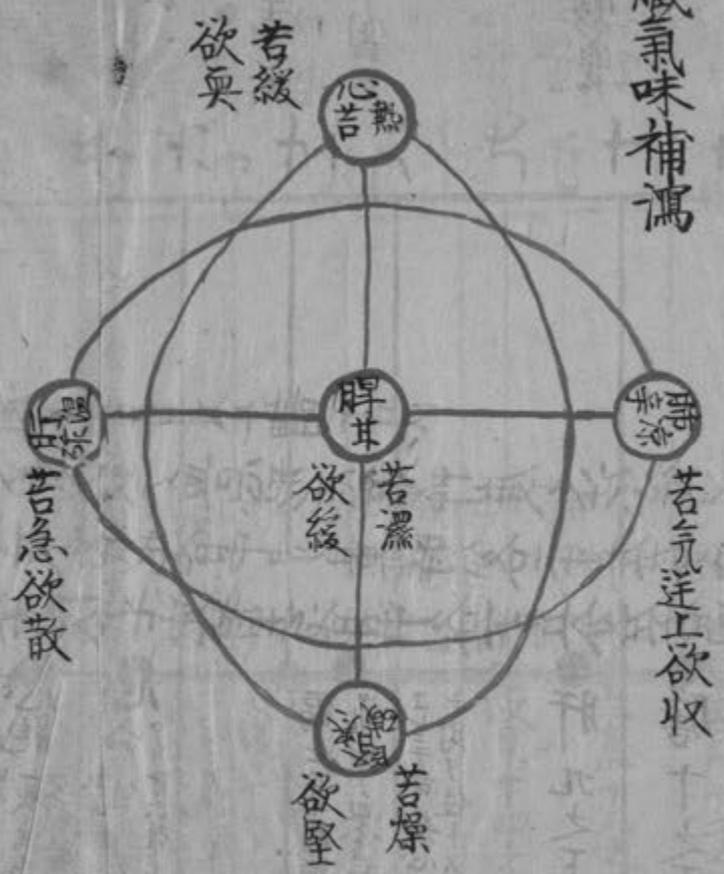
一婦人脈ヲ見ルハ手ニ表ナリ向テ手ヲ法ギナリ

一後テ居ル病人脈ヲ取ハ右ハ右左ハ左(血ヲ取ルベシ) 一不居テ左右ノ脈ヲ見ルハカラス又手ヲ依タル取ルベカラス 手ヲキタルトルベカラス 手ヲ下テタル取ルベカラス 皆遠フナリ

出當流ノ病源ト云ハ脈之ヲ取ナリ

艮巽坤乾

五臟氣味補瀉



三推秋西

肺 色白 氣冷 味辛 生ハ金ナリ 燥

九推春東

肝 色青 氣温 味酸 生ハ木ナリ 風

腎 色黒 氣寒 味鹹 生ハ水ナリ 土推冬北

五推夏南 心 色赤 氣熱 味苦 生ハ火ナリ

脾 色黄 氣熱 味甘 生ハ土ナリ 土推

脾ハ氣肉ヲ守シ 肺ハ皮毛ヲ守シ 心ハ血脈ヲ守シ 肝ハ筋ヲ守シ 腎ハ骨ヲ守シ

白眼ハ 肝ノ臟 黒眼ハ 脾ノ臟 上下ノ目ハ 腎ノ臟 中人ノ目ハ 心ノ臟 目頭ノ尻ハ 肺ノ臟

大推ノ定ノ説有不用之ハ項骨三推ノ除外  
 第四推ノ以大推ト定項骨ノ大小ノ依テ異シ  
 不抱之六ノ第一推ヲ称スル云フノミ

●大推一推之下

●凡門二推下名軀府

●肺三推之下

●心四下厥法論又持論

●心五下心門六下心下各于米トス

●膈七下膈膜位名難後血谷膈胸ト云

●心三下可知心肝居五九之内位トス

●肝九之下

●膽十一之下

●胃十二之下

●三焦十二之下

●腎十四之上

●小腸十六之上

●大腸十八之下

●膀胱十九之下

●中脘九之下

●回環九之上

●神道

●膏肓

●魄戶

●附分

●尾膠

●龜尾尾

●尾膠

脊脊第一行是夫跌上完相去脊中各寸五分左右則三皆命論類經曰救脊之說  
 按物同者救義也骨中ノ量時各寸左右圍也云此說可也此乃曰  
 經中命論類經ノ義ヲ救之意思形志皆屬神度之法從之也第三行推各寸五分左右是寸  
 之圍也脊骨之圍寸上六指寸

項骨三推

救無脊

大推下

凡門下

肺下

心下

膈下

肝下

膽下

胃下

三焦下

腎下

小腸下

大腸下

膀胱下

中脘下

回環下

神道

膏肓

魄戶

附分

尾膠

龜尾尾

尾膠

尾膠

尾膠

尾膠

尾膠

尾膠

尾膠

灸穴之次第

一ツセイ 俗  
大押一推之下  
凡門附分一名執府

肺魄戸三ツ下 疥癬ハ

膏育俗ヒロユウ

心神道五ツ下 患門ハ 勞症

諱祐六ツ下

膈関七ツ下

肝魂門九ツ下

痰次隔十ツ下 四花ニツ

脾胃舍十一ツ下

胃倉十二推下

盲門十三推下

腎志室十四推下

命門十五間

脊二ツ通二寸間  
三ツ通二寸ヒラキ

胸膈 中腕 氣海

石関 血海

命門足指ノ内庭ノ所ニ長  
三ツ重ハ胃ニツク

脊脊 命門 長強 下血ツク

任脈カウセ  
十巨關

十四上腕

八中庭

十六神関一名氣舍

四華蓋

氣海十八 関元

二天突

背脊 氣海

一廉泉

三璇璣

中脘 會陰

任脈之

右関十九

七膻中  
九鳩尾  
十一上腕  
十三連環

陰交十七  
水分十五

任脈起於中極下以上毛際循腹裏上関元至  
喉嚨属陰脈海也

督脉之圖



督脉起於下極

下極輪八兩陰同屏翳兩筋間為其入內深處

為下極督脉之所始也

並於脊裏上至頂入顛 頤至鼻柱屬陽脉

脊骨凡于推寸通頂骨三推共于四推寸

督脉之起尾闾寸寸初

○ 脊骨凡于推寸通頂骨三推共于四推寸

○ 後極之 阿是 石闕 或所是



肺 色白氣冷 味辛其金

肝 色青氣熱 味酸其木

心 色赤氣熱 味苦其火

脾 色黃氣平 味甘其土

胃 色赤氣平 味甘其土

御新代  
榮心  
丁  
町  
女  
插  
心

Kitasato Memorial Medical Library